

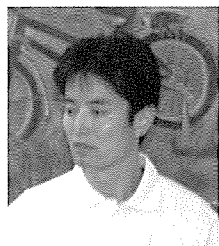
## 名古屋支部

## 「普通救命講習Ⅰ」開催

名古屋支部（新美三良支部長）は5月16日（水）午後1時から協会3階会議室（名古屋市中区）で、会員20名が参加のもと「普通救命講習Ⅰ」を開催しました。

はじめに協会事務局の環境アドバイザー 相宮良一氏の挨拶と、講師としてお招きした名古屋市救急救命研修所応急手当研修センター 応急手当指導員 山田敏路氏、同センター応急手当指導員 細江三男氏の紹介がありました。

講習会は山田指導員より講習内容の全体説明があり、実践講習を始める前に解説映像（配布資料「あなたが救える命のために」（名古屋市消防局）内の『応急手当のながれ』について）を見て、説明を受けました。次に参加者は3名一組になりダミー人形を使い、『応急手当のながれ』の人工呼吸までを項目ごとに確認し、胸骨圧迫の速度や両腕で押さえるときの体重のかけ方などの具体的な注意を受け、複数回行いました。



救命講習を指導する  
山田指導員

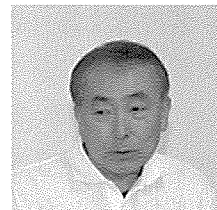
### ●応急手当のながれ

- ①反応の確認—まわりの安全を確認し両肩をたたきながら大きな声で呼びかける。
- ②助けを呼ぶ—大きな声で助けを呼び、相手を指定して119番通報（反応がないことを伝える。）とAEDを依頼する。
- ③呼吸の確認—10秒以内に胸、お腹の動きを見る。判断に迷う場合は呼吸なしと判断する。
- ④胸骨圧迫—胸の真ん中に両手の手のひらの付け根を重ねて、両腕をまっすぐに伸ばし真上から100回～120回／分の速さで胸が約5cm沈むまで圧迫する。

※血液の流れを止めないよう絶え間なく行う。胸を押した後は元の高さまで戻す。胸から手を離さない。

- ⑤人工呼吸—頭を下げ、顎を上げて気道を確保し、指で鼻をつまみ軽く胸が上がるよう息を吹き込む。胸骨圧迫30回、人工呼吸2回行う。感染防護具がなく人工呼吸がためられる場合は行わなくてよい。

AEDの使用方法では、解説映像を見た後、細江指導員により「応急手当のながれ」の中のAEDが到着してからの手順について説明があり、参加者が順番に操作体験をして実践さながらにシミュレーションをしました。



救命講習を指導する  
細江指導員

また応用問題として駅や公園、深夜のコンビニ、雨降りの路上など場合はどうすればよいのかと問いかけられ、回答例としてAEDが見える範囲にあれば取りに行く、近辺に無い場合は胸骨圧迫を続けて大声で応援を呼ぶ、など状況に合わせた対応をするとのアドバイスがありました。

### ●AEDが到着したら

- ①最優先で使用—電源を入れて音声メッセージに従って操作する。
- ②電極パッドの装着—汗などの水気を拭きとり貼り薬等ははがしてふき取り、心臓ペースメーカーがあれば離して胸の右上側から胸の左下側に電極パッドを貼り付ける。
- ③心電図の解析—音声メッセージに従って傷病者から離れる。
- ④電気ショック—傷病者に誰も触れていないことを確認してショックボタンを押す。
- ⑤応急手当の継続—AEDを装着したまま、救急隊に引き継ぐか傷病者の意識が戻るまで心肺蘇生を続ける。

その後気道異物の除去方法、出血時の止血法、傷病者の体位と移動の説明後、講習は終了しました。



山田、細江両指導員と参加された皆さん